

## 活動状況報告書（10月分）

文化芸術コース 第6期生 小林 大賀

- ・10月3日 コレヒオ・デ・メヒコ大学にてマティアス教授、三浦教授と面会。活動に関してアドバイスをいただく。
- ・10月5日 メキシコ在住のアーティストはぎのみほ氏が主催する文化施設 Paisaje Social（パイサヘ・ソシアル）を訪問。同施設で活動する若者へ、自身の作品と今滞在の企画をプレゼンテーション。また、パステル画のワークショップを行う（写真①）。はぎの氏の自宅にて美術館学芸員で教育プログラムを担当するミリアム氏と面会。
- ・10月7日 キューバ出身の映画監督が主催するワークショップへ参加。参加者は各自思い出深い食品を持ち寄り、匂いと記憶に関し互いに発表し合うというもの。チリ出身で総合大学 UNAM の映画学科へ通う同年代の社会人大学生エリック氏と知り合い、情報交換を行う。後日、文化地区の総合映画施設を案内してもらう。（写真②）
- ・10月11日、オアハカ地方出身の画家セルヒオ・エルナンデスの回顧展を訪れる。存命画家の作品としてこれまでで最も印象深いものとなる。また、美術館内のホセ・クレメンテ・オロスコの著名な壁画を鑑賞。（写真③）
- ・10月18日、近代美術館を訪ね、フリーダ・カーロ、ルフィノール・タマヨなど巨匠の作品を鑑賞する。（写真④）
- ・10月21～22日メキシコ・シティからバスで3時間ほどの地方都市イスキルパンにて邦人移住者の中竹かつみ氏とその義母を訪ねる。先住民族オトミ族の伝統を継承する中竹氏の義母の活動へ参加し、インタビューを撮影。イスキルパンの教会にて先住民の戦いが描かれた希少な壁画を撮影。（写真⑤）
- ・10月23日 受け入れ先のアマウリ教授が携わる、日本とメキシコの美術の伝統を比較する展覧会「Casi oro, casi ambar, casi luz」をカルス美術館にて見学。（写真⑥）
- ・10月26日、コレヒオ・デ・メヒコ大学にて三浦教授と面会。活動の進捗等を共有しアドバイスをもらう。
- ・10月31日 伝統的祝祭行事「死者の日」の取材のため、メキシコ・シティ近郊の町ミスキックを訪ね、撮影を行う。（写真⑦）

そのほかの活動：

- ・11月のサン・ルイス・ポトシでの詩祭参加に向け、主催者との連絡調整、また、作品のスペイン語翻訳等を準備。
- ・コレヒオ・デ・メヒコ大学の卒業生を紹介してもらい、スペイン語のプライベートレッスンを開始。翻訳の監修も受ける。

※10月6日 夜中に地震警報が鳴り、表通りに避難する。地方都市での大きな地震でしたが、メキシコ・シティでは特に影響ありませんでした。

写真①



写真②



(写真③)



(写真④)





(写真⑤)



(写真⑥)



(写真⑦)

